ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部
望月 義人

教育の責任

科目名	対象学年	受講人数※	授業形態	必修選択	科目区分（カリキュラムにおける位置づけ）
ツーリズム論	2-4	12	講義	選択	専門基礎・共通（コース共通の専門科目）
論理的思考と文章作成	1	6	講義・演習	選択	総合教養科目群・教養（コース共通の総合教養科目）

教育の理念

教育に携わるにあたって以下の諸点を理念としている。
①「学びは生涯続く」
②「教育により教える側も教えられる側も双方が進化する」
③「1 年前、4 年前の自分と現在の自分を比較して、必ず進化していることを喜びとする」
④特に学生に対しては、「大学での学修を通じて資質と能力を磨き、卒業後には、その資質と能力を惜しみなく還元できるように」「社会へ出たら、使える人材になろう」の 2 点を呼び掛けている
⑤学長として教員には「それは学生の力になれる教育か、を常に自問自答しながら教育に当たること」を呼び掛けている

教育の方法

アクティブラーニングを常に心がけており、教員側からの一方通行的授業は行わないこと、を徹底している。授業の基軸となる教科書、資料を配布するが、それを理解させるだけの授業は一切行っていない。基軸に沿って授業を進めるが、その方法は、教員と学生の授業中のやり取り、学生のプレゼンテーションについての互いの意見交換を重視した内容にしている。

授業というと、パワーポイント（PP）映像を投影して説明するという手法が多く行われているが、PP はあくまで補助手段であって、この説明をもって授業の着地点としてはいけない。

学生が授業内容をどの程度理解しているかは、授業中の教員と学生とのやり取りを通じて把握されるものであり、決められた授業の教室は、教員と学生とのフォーラムの場である、という考えを基本に授業展開することが最重要事項と思料する。

今年度は「ツーリズム論」の授業が、諸般の事情により夏学期集中講義において、オンライン授業で行わざるを得なくなった。この授業形態は、上記の「教育の方法」の形態がとりにくいが、鋭意工夫をして学修効果が高まる授業としたい。

教育の成果 および 今後の目標

「授業改善計画報告書」をそのまま運用することとしたい。

参考資料